JSRT企画
④血管IVR班

IVRにおける画像支援最前線
座長集約

岩手医科大学附属病院 中央放射線部　岩城 龍平(Iwaki Ryuhei)
山形大学医部附属病院 放射線部　佐藤 俊光(Sato Toshimitsu)

IVRにおける画像支援は治療戦略決定において非常に重要な役割を担っており、精度の高い画像が求められる。その要求の中で短時間・低被ばく・低造影剤量など、各施設で工夫を凝らした取り組みが行われている。本シンポジウムでは頭部領域（脳血管内治療）を新潟大学医歯学総合病院 布施真至さん、SHDSHDSHD : Structural Heart Disease領域（小児先天性心疾患）を岩手医科大学附属病院 工藤大和さん、胸部腹部領域（慢性血栓塞栓性肺高血圧症）を東北大学病院 中田充さんにご講演いただいた。

共通して複数回の画像検査および治療を要する疾患であるため、1回あたりの検査および治療の被ばく線量、造影剤量を最適化に導くことが我々診療放射線技師に求められる。今回ご講演いただいた3名のシンポジストからはCTやMRIを用いたFusionFusion FusionFusion画像による支援や、低管電圧・希釈造影剤を用いた被ばく・造影剤量低減の工夫、単純CTからの支援画像作成など明日からの診療に役立つ内容を解説いただいた。一方で装置の進歩に伴うマルチモダリティでの知識習得の必要性や、支援画像を作成する上でベースとなる解剖学的知識や病気の理解は今後より一層必要となることが示唆された。装置の性能を十二分に発揮するためにも更なる研鑽と教育体制の構築が必要と言える。またIVRに携わる方以外でも本シンポジウムをご参考頂き、IVRで求められる画像を知ることの一助となれば幸いである。

今回のシンポジウムが多くの施設で参考となる事を望むとともに、シンポジストの方々への感謝を申し上げ、座長集約とする。